

# コハクチヨウとウミネコの長寿記録

## 鳥類標識調査で

最近、鳥類標識調査<sup>ワイルド</sup>の成果として、コハクチヨウにおいて足環の観察・撮影により、またウミネコで足環付き個体の再捕獲によって、従来の日本での記録を更新する野外における長寿記録が生まれた。

コハクチヨウの長寿記録は、2004年3月24日に猪苗代湖南岸の青松浜(福島県郡山市)で小山良男さんによって観察された、足環番号150・0286の個体。この個体は、1983年12月13日に猪苗代湖南西岸の崎川浜(会津若松市)で山階鳥研の職員によって雌幼鳥として標識放鳥されたもので、近年は小山さんによって猪苗代湖で継続観察されていた。2004～5年および2005～6年の越冬期には観察されなかったため、20年3ヶ月の記録となる。従来、標識研究室では金属足環の観察を回収記録として扱っていなかったが、このたび、ガイドナンバー(足環番号の前半で、足環のサイズを示す)が足環の形状から推察できること、後半の番号がすべてわかる写真の記録があることを条件に回収記録として扱うこととした。

標識研究室の吉安京子研究員は、「今後、デジタルカメラやデジスコの普及によって、写真記録による回収が増えることが期待できます」と述べている。

ウミネコは、青森県八戸市の集団繁殖地である熊島で、2005年5月21日に協力調査員の成田意一さんによって捕獲・放鳥された、足環番号090・21801の個

体。この個体は、1974年6月16日に同じ成田さんによって雛の時に足環を装着された個体で、30年11ヶ月の長寿記録となった。



20年3ヵ月の新記録を立てたコハクチヨウ。2004年3月24日猪苗代湖青松浜にて  
(写真提供：小山良男)

た。鳥類は一般に多くの個体が若いうちに死亡し、限られた数の個体だけが長く生きる。こういった長寿の記録は、足環以外には標識による調査を長期間継続する以外には確認する方法がなく、今回の事例も調査の継続が生み出した貴重なデータといえる。

(注1) 標識調査は、野鳥を捕獲して番号付きの足環を装着後、放鳥し、再び回収されたときの場所・日時を記録することにより、鳥の渡り経路や寿命などを調査するもの。日本では、山階鳥研が環境省の委託のもとに、全国の約450名の協力調査員の協力を得て行っている。

(注2) デジスコ 望遠鏡にデジタルカメラを装着したもの。従来のフィルム式カメラに比較して高倍率の画像が得られ、条件が良ければ中型以上の野鳥の足環を捕獲しなくても撮ることができる。

